世界の情勢（アジア）II

科目ナンバリング　ARS-102
【Ⅳ】　選択　2単位

西岡　淳

1. 授業の概要（ねらい）

世界の情勢（アジア）Ｉで学修した現代アジアの理解の上に、この授業では、戦前から現代に至る日本とアジア地域の関係について学んでいく。授業の前半では、明治期から21世紀初頭までの歴史的事実を踏まえながら、日本とアジアの関係をアジア太平洋戦争、冷戦等の切り口から考察する。アジアの人々の視点に立った見方を通じて、現在の日本とアジア地域との関係を深く理解することにつなげていく。また、日本の対アジア経済協力、カンボジア・東チモールでの国連PKO活動、インドシナ難民受け入れを私の実務体験を織り混ぜながら説明する。
授業の後半では、日本の隣国である中国、韓国との間で未だ克服されていない諸問題について考える。そして最後に、中国の台頭とアジアの国際環境の変化、米中関係、アジアの経済統合などのテーマについて取り上げる。
この授業は考えることに重きを置く。授業を通じて各自が考えたことを、アジアの人々との交流に是非生かしてもらいたい。
なお、第8回授業はオンライン（LMSによるオンデマンド形式）による授業とする（予定）。

2. 授業の到達目標

19世紀末から現在に至る日本・アジア関係の歴史的事実について説明できる。
日中、日韓、米中関係等に関する新聞報道の内容を理解できるようになる。
日中関係および日韓関係の課題について理解を深めるとともに、その解決のための方途についても考察できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

平常点（出席及びリアクションペーパーの提出、復習テスト/課題）：60%
期末テスト：40%

4. 教科書・参考文献

教科書
教科書は特に使用しない。授業ではスライドを用いる。
参考文献
田中明彦　『アジアの中の日本』　NTT出版（2007）
東郷和彦、波多野澄雄　『歴史問題ハンドブック』　岩波書店（2015）
宮城大蔵　『戦後日本のアジア外交』　ミネルヴァ書房（2015）

5. 準備学修の内容

毎回の授業後にLMSによる復習テストまたは課題を課すので、自宅学修を行ってください（成績評価の対象となります）。

6. その他履修上の注意事項

高校での世界史、日本史の履修を必要とはしません。世界の情勢（アジア）Ｉを修了していることが望ましいですが、未修であっても履修を認めます。
遅刻は減点対象とします（但し、45分以上の遅刻は出席とはカウントしません）。6回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりませんので、出席を心がけてください。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス（授業の目的、授業の進め方、成績評価についての説明）
はじめに：日本とアジアの関係を考える
【第2回】　戦前期（日本の膨張政策/ 植民地統治下のアジア）
【第3回】　戦中～被占領期（日本軍のアジア支配/ 日本の敗戦/ アジアの独立・建国）
【第4回】　サンフランシスコ体制/ 賠償と経済協力
【第5回】　民主化とアジア/ 冷戦後のアジアと日本
【第6回】　アジアの経済発展と日本
【第7回】　アジアの難民問題と日本
【第8回】　［オンライン］アジアと日本の国際平和協力活動
【第9回】　日韓関係
【第10回】　日韓関係（続き）
【第11回】　北朝鮮問題
【第12回】　日中関係
【第13回】　日中関係（続き）
【第14回】　中国の台頭・米中関係と日本
【第15回】　アジアの経済統合

なお、以上は予定であり、変更することがあり得る。